

日陶連ニュース 2022



Japan Pottery Manufacturers Cooperative Association

No.262

編集
発行

日本陶磁器工業協同組合連合会
〒461-0002 名古屋市東区代官町39番18号
URL <http://www.toujiki.org/kyoren>

理事長 中野 昭雄
TEL(052)935-7231

FAX(052)935-7254

事務局 柴田 成巳
青木 あゆ子
中村 久美子

日本陶磁器工業協同組合連合会 通常総会を開催

新理事長に中野昭雄氏(愛陶工)を選任



就任挨拶をされる中野新理事長

日本陶磁器工業協同組合連合会は、5月31日(火)午後3時30分から日本陶磁器センターで、令和4年度通常総会を開催、任期満了による役員の改選をはじめ令和3年度事業報告、収支決算の承認などを行った。

役員の改選では、日陶連所属の22組合からの選出により理事、監事を決めた後、理事会において正副理事長の選任が行われ、理事長に中野昭雄氏(愛陶工)が新しく選任された。

副理事長は、松原朝男氏(岐工連)、大原耕造氏(信楽)、松尾慶一氏(波佐見)、藤井健司氏(萬古)が留任され、田中亮太氏(佐賀)が新任された。

【日陶連傘下22組合の理事長】

(順不同・敬称略・所属組合名は略表示)

中野昭雄(愛陶工)、松原朝男(岐工連)、藤井健司(萬古)、大原耕造(信楽)、太田一彦(波佐見)、田中亮太(佐賀)、土平栄一(とこなめ)、加藤誠二(岐窯原)、島倉淳(品野)、井澤俊大(三河)、糠野嘉則(笠原)、加藤勇次(滝呂)、加藤直輔(市之倉)、佐藤尚樹(高田)、平井敏文(土岐津)、山田寛久(泉)、齋木正一(肥田)、加藤晃一(下石)、熊谷武文(妻木)、加藤高義(駄知)、松崎英之(瑞浪)、水野安喜(恵那)



就任のご挨拶

日本陶磁器工業協同組合連合会
理事長 中野 昭雄

このたびの日本陶磁器工業協同組合連合会の通常総会において、河口一前理事長の後任として、新たに理事長に選任されました。

各陶産地の現状では、コロナウイルス感染症の影響が長引く中、LPG価格や陶土、釉薬の価格高騰により採算性の維持に大変苦慮しております。加えて、2月に始まったロシアのウクライナ侵攻による世界経済に与える影響は非常に大きく、今後に懸念されております。

このような中、成熟した陶磁器業界の更なる発展を考え、新たな需要の開拓や市場拡大など、それらを実現していく事の難しさや責任の重さを痛感しております。

国内市場では、陶磁器の売り場面積が縮小していることから、各産地では、中国をはじめとする海外市場への展開が活発化しております。

日陶連としては、そうした活動の一助となるよう海外との繋がりを作っていくことに努力したいと考えております。

また、自民党の国会議員で構成する、自民党陶磁器文化・産業振興議員連盟に対し業界の現状を伝え、各種支援金の創設、低金利融資などを国に対して要請していきたいと存じます。

22組合で組織する日陶連として「何が出るか」を組合員の皆様とともに考え、ともに行動していきたいと思っております。

微力ではございますが、一生懸命務める覚悟ですので、組合員の皆様には深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。

陶磁器産地国会議員との意見交換会 第2回目会合を開催



業界の状況を説明し支援を求める河口理事長

三重、滋賀、長崎、佐賀)とする国会議員、経済産業省、中小企業庁、資源エネルギー庁の担当者らによる意見交換が行われた。

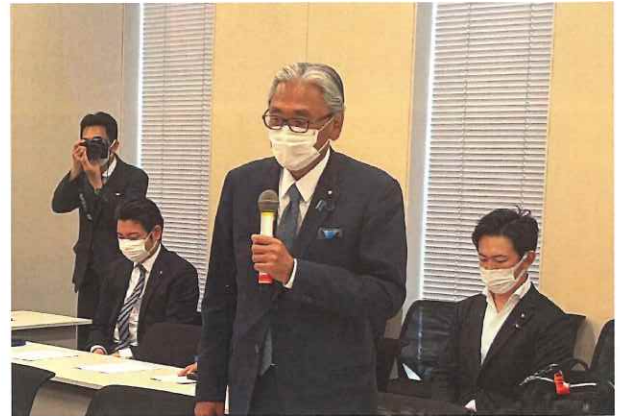
河口理事長は、陶磁器業界が抱える大きな問題点として、LPG、陶土、釉薬の価格高騰、後継者育成、設備の更新資金、原料の入手難などを挙げ支援を訴えた。

これに対し、自民党陶磁器文化・産業振興議員連盟の古屋圭司代議士から、陶磁器業界が使いやすい支援制度を用意している。特に、コロナ禍における小規模事業者持続化補助金では「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」として、LPG等の価格高騰の影響を受ける小規模事業者を支援するため、新規に「加点措置」が創設され、LPGを主燃料として使う陶磁器製造事業者の採択幅が広がったことなどの説明があった。

また、古屋代議士からは「こうした意見交換会は業界の実情を知る絶好の機会であり、業界に問題が起きた時だけではなく定期的に開催したらどうか」との発言があり、これを受けた河口理事長は「大変ありがたいお言葉で是非、継続させて頂きたい」との意思を示した。

日本陶磁器工業協同組合連合会(河口一理事長)は、5月12日(木)15時30分から、衆議院第1議員会館会議室で「陶磁器産地選出の国会議員との意見交換会」を開催した。

同会合は、本年2月4日にも開催しており、今回はその第2回目となるもの。前回会合に引き続き、陶磁器業界が抱える問題点への対応策について、当連合会傘下組合理事長と、全国の陶産地を選挙区(愛知、岐阜、



自民党陶磁器文化・産業振興議員連盟会長
古屋圭司代議士

日陶連内地向部会

経済産業省の担当官と懇談会を実施



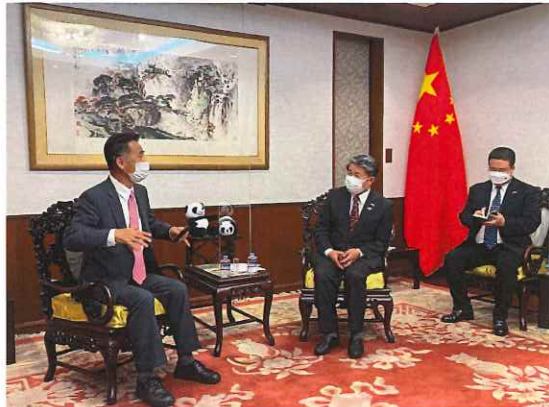
日本陶磁器工業協同組合連合会は、5月13日(金)、後楽園飯店(東京都文京区)で、内地向部会を開催した。

今回は、経済産業省生活製品課の塚本裕之企画官と関口直人課長補佐を招き両名との意見交換会を主体とした会合とし、LPG価格高騰やペタライトなど鉱物資源の入手難、中国での商標問題など、各産地が抱える問題を題材とし、多岐にわたり詳細な意見交換が行われた。

各産地の状況報告では、コロナにより市場での売り方が変わってしまった。問屋さんに対する商品の売り方について再考することが必要(波佐見工)。陶器市が3年ぶりに開催出来て何とか「一息」つけた状況、今後はG o T o トラベルに期待したい。大手企業の進出により労働力が不足していることや陶土の値上げが予定されていることなど今後に不安(佐賀工)。ペタライトの不足に向けた研究をスタートする。業界全体での産廃のリサイクルを考えることや、業界規模が全体的にシュリンクしていることから今後は産地単一ではなく、日陶連全体でいろいろな分野において取り組むために情報の共有の必要である(萬古工) — などの意見があった。

大阪中国領事館に訪問

日陶連の商標登録の報告など



薛総領事(中)と面談する河口理事長(左)

日陶連の河口一理事長は、このほど機会を得て、大阪の中国領事館を訪問し、薛剣(セツケン)大阪総領事と面談した。

河口理事長は、陶磁器製飲食器・ノベルティ

の中国への輸出が伸長している事や、日陶連の商標を中国で登録し更なる輸出の振興を目指していることなどを説明した。

薛総領事は、中国国内では日本のものが好まれる傾向が出てきた商品がいくつかあり、陶磁器もその一つ



同行の大原耕造副理事長(右から2人目)とともに記念撮影を行う

である。今後も日本と中国が、お互い活性化できるよう交流する事が重要であるとした。

2022年度

日陶連 国内PL団体補償制度 団体加入制度のご案内

2022年度の国内PL保険の団体加入者の募集が始まりましたので加入希望の組合員様には、是非お申し込み下さいますようお願いいたします。

1. 基本契約の概要 本制度加入者が、製造・販売した陶磁器および陶磁器関連製品が原因(業務上の事故)で、国内においてケガをさせたり死亡させた事故、他人の物を壊したりする事故の損害に対して保険金(損害賠償金、争訟費用、緊急対応費用、被害者見舞・臨時費用など)を支払います。

2. 保険期間 本年7月1日から翌年7月1日まで(中途加入の場合は、保険料が月割りとなります)

3. 保険料 ご加入タイプと本制度加入者の製品の直近会計年度(1年間)の売上高によって決まります。本制度加入者1社の最低保険料は1,000円。

	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	Dタイプ
支払限度額 (対人・対物共通)	3,000万円 (1事故・保険期間中)	5,000万円 (1事故・保険期間中)	1億円 (1事故・保険期間中)	3億円 (1事故・保険期間中)
仕事の目的物の損壊担保特約 支払限度額 (保険期間中)	1,000万円 (保険期間中)	1,000万円 (保険期間中)	1,000万円 (保険期間中)	1,000万円 (保険期間中)
自己負担額 (対人・対物共通)	なし	なし	なし	なし

令和4年度全国安全週間スローガン

安全は 急がず 焦らず 怠らず

厚生労働省

全国安全週間は、労働災害を防止するために、産業界での自主的な活動の推進と、職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を目的としています。

例年、作業環境の厳しくなる夏季に労働災害が多発する傾向にあり、7月1日から「全国安全週間」が実施されます。重大災害ゼロを目指し、今一度現場の安全点検を行うなど、事業場における安全意識の高揚と自主的な労働災害防止活動の一層の促進を図りましょう。

損保・生保各種お気軽にご相談ください。

日本陶業連盟 災害補償制度
日本陶業連盟 国内PL団体補償制度

担当
代理店

ジェイアイシーセントラル株式会社

〒460-0008 名古屋市中区栄5-28-19 アルティメイトタワー栄Vビル9F

☎ 052-262-2211

✉ infohp@jiccentral.co.jp

➤ For More Info



新型コロナウイルス感染症の影響で、各陶磁器産地の陶器祭りは自粛されていたが、5月には佐賀県有田地域、長崎県波佐見地域、三重県四日市地域で3年ぶりの陶器祭りが



開催され、賑わいを見せていた。3年ぶりの開催とあり、どの会場も来場者は多く売り上げも上々であったとの事。

コロナ禍に
あつて、WEB



波佐見陶器祭り(4/29~5/5)

上でのイベント開催や、ネット通販など新たな売り方が確立されてきた事は良い傾向ではある。

しかしながらリアルでの開催は、お客さんと対面で販売することで商品のアピール度も高くなり、販売につながったという。



四日市ばんこ祭り(5/21~22)

各産地ともに、お客さんの反応を直に感じられ、実販売もできたことで「一息つけた」との感想があった。



日	月	曜日	行事名	会場
5月	◆			
6日		(金)	日陶協連 監査会	
10日		(火)	日本窯業顔料工業会 定例会	
12日		(木)	自民党陶磁器議連との意見交換会	(東京)
13日		(金)	内地向部会	(東京)
14日		(土)	(一財) 日陶連技能評価試験(専門級)	(恵那)
18日		(水)	(一財) 日本陶業連盟 監査会	
19日		(木)	(一財) 日陶連技能評価試験(専門級)	(瑞浪)
31日		(火)	(一財) 日本陶業連盟 理事会	
			日陶協連 理事会・通常総会	
6月	◆			
2日		(木)	日本電磁器協会 総会	
9日		(木)	(一財) 日陶連技能評価試験	
17日		(金)	(一財) 日陶連技能評価試験(専門級)	(瑞浪)
21日		(火)	(一財) 日本陶業連盟 評議員会	(瀬戸)
30日		(木)	(一財) 日陶連技能評価試験(専門級)	(瑞浪)
7月	◆	(予定)		
9日		(土)	(二財) 日陶連技能評価試験(専門級)	(下石)
23日		(土)	(二財) 日陶連技能評価試験(上級)	(岐阜県)
28日		(木)	(二財) 日陶連技能評価試験(上級)	(瑞浪)

◆お知らせ◆

◆お知らせ◆

日陶連ニュース、次号の発行予定は、

令和4年8月20日頃です。



☆業務日誌 ※開催地記載なしは名古屋市